

Walkable City Minakama

2021年美濃加茂市10大ニュース



SDGs 未来都市・自治体 SDGs モデル事業に選定

「誰一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性のある社会の実現を目指し、国を挙げて取り組みが進むSDGs。自治体によるSDGsの達成に向けた優れた取り組みを提案する「SDGs未来都市」として、美濃加茂市が岐阜市、高山市とともに選定されました。

同時に、本市が提案する事業内容が、特に先導的な取り組みとして認められ「自治体SDGsモデル事業」にも選定されました。

なお、11月には里山や堂上蜂屋柿など美濃加茂らしさを表現したロゴマーク（右）も完成しました。



SDGs 未来都市
みのかも



新型コロナウイルスへの対応に手綱を緩めず

新型コロナウイルス感染症の県外公表含む市内の感染者数は千人を超え、公共施設などの利用制限や利用禁止など、市民生活に大きな影響を与えました。

医療従事者への先行接種をはじめ、個別医療機関や集団接種会場で4万4千人以上の接種を完了。外国人市民の多い本市では、教会などと連携しながら、感染対策の徹底や接種率を高めてきました。

また、市民生活を支える医療従事者や介護・障害施設従事者の皆さんに敬意と感謝を届ける商品券の配布を広域で連携しながら行いました。





「すべての健康のために歩き続けるまち」の実現へ 中部国際医療センター・みのかも健康プラザ竣工

2019年12月から社会医療法人厚生会が建設工事を進めていた「中部国際医療センター」と、附属棟「みのかも健康プラザ」が、12月に完成し、健康のまち一丁目に「医療」「保健」「子育て」の施設が一堂に会する健康の拠点が整いました。

今後、この場所から厚生会と株式会社フィリップス・ジャパン、本市の三者連携に基づいた疾病予防のための健康や医療情報の活用や里山を活用した健康づくりなど市民の健康寿命延伸を目指す官民連携の取り組みを進めていきます。



スポーツと憩い、防災の顔を持つ 牧野ふれあい広場の整備工事がスタート

牧野緑ヶ丘に建設を予定する「牧野ふれあい広場」の起工式を7月に行い、令和7年の完成を目指して工事を進めていきます。

整備面積は約8ヘクタール、陸上競技場やサッカー場、アーチェリー場、芝生広場などスポーツの場、憩いの場として整備します。

また、大規模災害時には、自衛隊や救援隊などの受け入れや救援物資などの集積地として地域防災拠点の役割を持つ広場として整備を進めていきます。



▲完成後の牧野ふれあい広場（参考イメージ）



リニューアルオープンした 美濃加茂市文化会館の愛称が「かも〜る」に決定

10月1日に市文化会館がリニューアルオープンしました。今回のリニューアルでは、地震被害を最小限にするために建物本体や天井などの耐震性の強化や長寿命化を図る改修工事とともに、備品の新調や更新で利用者の利便性の向上を図りました。

また、愛称の募集も行い232点の応募作品の中から市民投票の結果、太田小学校4年生の湍谷海斗さんの「かも〜る」に決定。この愛称には、「COME ALL みんなで力を合わせて未来に向かっていこう」などの想いが込められています。





農業だからこそできる持続可能な社会の実現に向けて 「みのかも農業ビジョン」スタート

「担い手育成」「食の循環」「環境保全」の3つを重点政策とする「みのかも農業ビジョン」がスタートしました。

これまで「里山千年構想」に基づき進めてきた里山再生や里山資源の活用の取り組みと共に、現在ある課題にしっかりと向き合いながら、美濃加茂市の農業のあるべき姿や、里山と共にある美濃加茂の農業だからこそできる持続可能で健康な社会の実現に向けた取り組みを進めていきます。



住んで楽しい古井のまちを目指して 古井まちづくり協議会が設立

古井地区で地域住民が主体となってまちづくりを進める住民自治の組織「古井まちづくり協議会」が6月1日に設立されました。同協議会は、約2年前に準備会を設立し、勉強会やアンケート、ワークショップなどに取り組み、今後の古井地区の目指すべき姿などをまとめた「古井まちづくりビジョン」を策定しました。

今後は、地域の課題解決に向けて活動している団体などの活動支援や、人材育成、既存団体をつなげる場づくりなど、新しいまちづくり協議会の形である「中間支援型」の活動を行っていきます。



伊深地区ににぎわいを生み出す 官民の新たな拠点がオープン

地域の人たちと語らいながら作り上げた新伊深交流センターがオープン。市内初となる賃貸借方式で財政負担の平準化を図りました。太陽光発電と電気自動車からの電力供給を備え、災害時には避難所の電力を賄うことが可能です。地域の安全・安心を担うとともに、まちづくり拠点としての役割を果たしていきます。

また、伊深町の国登録有形文化財「旧伊深村役場庁舎」を活用した「いぶカフェ」がオープン。ジビエや地元産野菜などを生かしたメニューを提供し、里山資源を味わい、知ることのできる場を提供しています。





ゴミの減量を目指して 「530（ごみゼロ）さんぽ」が始まっています

今後10年間の指標となる「第3次美濃加茂市廃棄物処理基本計画」を策定しました。各家庭でのゴミの減量を目指して「スプーン一杯ごみ減量運動」を推進していきます。

また、第6次総合計画のテーマである「健康増進」につなげるウォーキングと環境美化への取り組み「ごみゼロ運動」を組み合わせた「530（ごみゼロ）さんぽ」の取り組みを開始。現在、約60人が参加登録をしています。参加登録は、環境課窓口、各連絡所で受け付けています。



安全な通学を実現する下則友南坂線が全面開通

平成6年度から着手した下則友南坂線の蜂屋町地内での道路改良事業が完成し、2車線道路と歩道が全面開通しました。

同路線は蜂屋小学校の通学路として指定されているものの一部の未改良区間で窮屈な道幅となっていたが、この工事により子どもたちが安全に通学できるようになりました。

またこの道は、みのかも健康の森と国道418号、東海環状自動車道美濃加茂ICを結ぶ主要なアクセス道路として利用されます。

